

## 千葉県自閉症協会W.I.I.クラブ自然観察会

藤田浩二（茂原市）

日 時：2011年6月25日（土）10:30～12:00 天候：曇り時々晴れ

参加者：子ども6人、大人6人 計12人（4家族）

担当指導員：山田益弘、木下順次、藤田浩二、椎名明子（外部講師）

参加者は県内各地（市原市、松戸市、大網白里町）から参加の未就学児2人（男子・女子）、小学校1年生2人（女子）、4年生1人（女子）、5年生1人（男子）でした。今回のプログラムは、bingoカードを使って、五感で自然を感じてもらうこととしました。受付時には、まず楽しい雰囲気を演出するために、椎名講師によりトトロなどのアニメソングをコカリナで演奏しました。しぜんに子ども達の合唱も加わり、とても良いアイスブレイクとなりました。

次に、講師の自己紹介や注意事項については、ポイントをスケッチブックに大書きしたもので説明しました。自閉症の特徴として視覚優位性が高い傾向にあるとのことなので、口頭だけでなく文字も併せて伝える方法は、子ども達に対して、注意事項への理解を深める手法として有効と感じました。

観察コースは、東屋～冒険広場～滑り台下～ハナショウブ園～東屋としました。まず、冒険広場ではいろいろな木に触り、木肌の違いを感じながら木に親しんでもらいました。子ども達は自分で書いた「目」をつけてもらうゲームでは、それぞれ個性的な「木の顔」ができあがり盛り上りました。次に、滑り台付近ではノシメトンボなどが沢山現れ、子ども達は待っていましたと捕虫網を振り回し楽しそうでした。ムクノキの木陰では、ムクノキとシラカシの葉を使って、爪のお手入れタイムとなりました。これは子供達よりもお母様方のほうが興味津々のようでした。

後半のメインプログラムは、ハナショウブ園上流の池での生き物探しです。ザリガニ釣りでは、ほぼ全員が釣り上げて、ググっとくる引きの感触に大満足のようでした。ウシガエルのオタマジャクシでは大きさを手で触って確認しました。ヌメっとした感触を、意外と気に入った子どももいました。東屋にもどった後は、芝生の上でザリガニの生態に触れた紙芝居をおこない、シュロの葉でつくったバッタのお土産を、芝生の中で捜すゲームをして散会としました。

ふりかえりとして、保護者の方からは「普段何気なく見過ごしている自然がこんなにおもしろいなんて知りませんでした。とてもいい企画でした。」等との感想をいただき、満足度は高かったと思います。

